

(1) 支援籍学習とは

「支援籍」とは、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒と一緒に学ぶ機会の拡大を図るとともに、障害のある児童生徒に対する適切な教育的支援を行うために、「個別の教育支援計画」（教育支援プランA）及び「個別の指導計画」（教育支援プランB）に基づき、在籍する学校または学級以外に学籍に置く埼玉県独自の仕組みです。

例えば、特別支援学校に在籍する児童生徒が居住地の小・中学校に「支援籍」を置くことにより、同じ学校のクラスメイトとして一定程度の学習活動を行うことができます。

また、小・中学校の通常の学級に在籍する障害のある児童生徒が、特別支援学級や特別支援学校に支援籍を置いて、障害の状態を改善するために必要な指導を受けるケースもあります。

支援籍学習によって、障害のない児童生徒にとっては、同じ地域に住む障害のある児童生徒と学級の一員として一緒に学ぶことにより、「心のバリアフリー」を育むことができます。また、障害のある児童生徒にとっては、地域との関係を深めるとともに、在籍校（学級）以外の学校（学級）において学ぶことにより、「社会で自立できる自信と力」を育むことができます。



「支援籍学習実践事例集」平成 23 年 3 月：特別支援教育課より

(2) 支援籍の種類

支援籍学習には3つの種類があります。

通常学級支援籍（小・中学校の通常の学級での支援籍）

特別支援学校や特別支援学級に在籍している障害のある児童生徒は、日々の授業等でその障害に対する教育を受けていますが、一方では障害のない児童生徒との交流や地域とのつながりは希薄になります。そのため、居住地の小・中学校に支援籍を置いて学習することで、障害のない児童生徒との交流やつながりを深めることができるようになります。これを通常学級支援籍といいます。

特別支援学級支援籍（小・中学校の特別支援学級での支援籍）

小・中学校の通常の学級に在籍している特別な教育的ニーズのある児童生徒は、障害のない児童生徒との交流や地域とのつながりは強いものの、その一方で教育的ニーズに対する専門的な教育という点では、十分でない場合もあります。その時、より専門的な教育を受けるために、特別支援学級に支援籍を置いて学習することができます。これを特別支援学級支援籍といいます。

特別支援学校支援籍（特別支援学校での支援籍）

小・中学校の通常の学級や特別支援学級に在籍している特別な教育的ニーズのある児童生徒が、その障害に基づく困難の改善を図る目的で、より専門的な教育を受けるために、特別支援学校に支援籍を置いて学習することができます。これを特別支援学校支援籍といいます。

(3) 支援籍学習の取組（例）

< 知的障害特別支援学校中学部に在籍している生徒の通常の学級における支援籍学習 >

本生徒(以下、A君と記す)は、月1回、給食から清掃活動、5・6時間目の授業、帰りの会に参加しています。

中学校の担任の先生は、『配慮はするが特別扱いはしない』という方針で、なるべく他の生徒と同じ活動をするようにして、どうしてもできないことだけ支援するようにしているそうです。そして、そのために「できることを探す」努力をしているそうです。できることをさせ、褒めて、認めることが大切だと考えているとのこと。

生徒たちは、人から教えられるだけでなく、日常の関わりの中でA君について理解を深めていきます。

掃除の時間のことです。A君は、普段、特別支援学校でも清掃をしています。いつものように机を運ぼうとしましたが、持ち上げた途端、机の中身が床に落ちてしまいました。それをきっかけにA君はイライラしだし、運ぼうとしていた机をものすごい勢いで押し倒してしまいました。まわりの生徒たちはA君のひょう変にただ驚くばかりです。

実は普段、A君は机を運ぶとき、自分が座っている側、つまり机の口が開いている側を手前にして運んでいるのですが、A君が教室で使っている机はあまり物が入っていないので、それでもうまくいきます。ところが、中学校の場合、机の中には教科書等、たくさんのものが入っているので、運ぶときは机の前に回って、机の口が開いている方を向こう側にして持ち上げるようにしています。

「机を運ぶ」という同じ動作ですが、いつもと同じやり方で上手くできなかったということに気持ちが不安定になってしまったのだと思われます。

このときには、帰りの会で「A君はいつもと違うことに強く不安を感じやすいこと、しかし一度学んだことはしっかりとやるとともに、次は上手になっていること」を話しました。これ以降は、どう伝えればA君がもっと上手にできるかをまわりの生徒が考えるようになりました。

担任の先生は、「このように、まわりの生徒にはA君の気持ちが分からず、『なぜこんなことをするのだろう』と思うことが時々あります。そんなときこそが『理解を深めるチャンス』だと捉えています。」と話されていました。

A君の保護者の方は、支援籍学習の感想として、次のように話されていました。

中学校の友達を見ていると、やはり最初はどう声をかけて良いのか、戸惑っているようでした。でも、接していくうちに対応がスムーズになってきたようです。

中学校の担任の先生は、何か問題があるとその都度、帰りの会でその問題が起こった背景や、なぜそうなったのかを考える時間を設け、対応の仕方について話していただきます。起こったことの背景や気持ちをみんなで考えてくれるとありがたいです。

子供が、友達の自然な配慮で失敗を繰り返さないように、周りの友達の行動を見ながら頑張る姿に、今まで出し切れなかった実力を感じ、とても嬉しく思っています。